

## じっけん

昭和五十三年 度 二年 男児

教室でじっけんをしました。先生だけがじっけんして、ぼくたちは見ていました。どい君はおみせやさんなのでキャラメルを持ってきました。ぼくが聞いてみると、

「先生からのまっだもん。」とどい君がいていました。

じっけんがはじまって、先生が、お湯と水を混ぜたのにキャラメルを入れようとしたら、みんなが

「いだまし、いだまし。」といました。

ぬるま湯に入ったキャラメルはだんだん小さくなっていった、水の色もちゃ色になってきました。ぼくはなぜ水がちゃ色になっていくのか考えました。そしてキャラメルがとけていくからちゃ色くなるんだと分かりました。だからキャラメルはとけるのだと分かりました。かくぎどうの実験もしました。かくぎどうはぬるま湯に入れると上にぶくぶくとあわが出ました。ぼ

くは、そのときかくぎどうの中に空気が入っているのがわかりました。それから先生はぼくたちにテストをわたして書かせました。そしてその間に細い竹のくしみたのでコップをかき回しました。ぼくたちは、じろろ見ながらテストを書きました。そして終わったら、さとうゆとキャラメルのも先生がのんでしまいました。ぼくたちは

「あ、あ、飲むな。」といたりしました。けれども先生はのんでしまいました。そして

「あーうまいよ。」といました。そしてだれだか

「ずるいのー。」と言いました。そして先生が

「あしたのませっがら、コップもってこい。」と言いました。ぼくたちは

「やったー。」と言ったりしました。

でも、ぼくは先生がかくぎどうやキャラメルをわすれてくつがもと、心の中で思いました。